

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
保育実習Ⅲ Childcare Practice Ⅲ		2年	通年	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	実験実習	選択	(保育士養成課程必修(保育実習ⅡかⅢのいずれか))	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
保育実習指導Ⅲ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大塚 登	本館2階	火・水・木・金曜日の9時～17時		授業中に指示します
授業の概要				
児童福祉施設等において、特別な支援を要する子どもたちと生活する中で気持ちを理解するとともに、児童福祉施設の機能と保育士の仕事を理解する。その中で、保護者の願いについても学ぶ。				
授業の目標				
すでに学習した保育・児童福祉施設に関する教科の知識や技術を基礎として、児童福祉施設等での保育を実践できるようにする。その際、それぞれの興味関心を生かした課題を持って実習に臨み、実習施設より努力を認められる評価をいただくようにする。また、子どもの発達や個人差、家庭環境の違いについても目を向けた保育活動を目指す。				
授業の方法				
児童福祉施設等の必要性と保育の実践方法を考えながら、児童福祉施設等にて11日間（実習時間90時間以上）の実習を行う。実習施設によっては土曜日、日曜日の実習や行事、遠足などにも参加する。子どもの発達と個人差や家庭環境の違いにも目を向けた保育活動を目指すようにする。				
学習の成果（学習成果）				
①子どもと積極的に関わり、特別に支援する内容を自ら考え実践することで、保育技術の向上に向けて努力する力をつけることができる。 ②子どもを受容し、共感する態度を身に付けられる。 ③特別な支援を要する子どもの保護者への理解が深まり、幅広い視点から支援を工夫することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	《保育実習の意義・内容・方法を再確認し、各自が決めた実習施設での実習準備をする》			
第2回目	1、実習担当と相談して実習施設を決める。			
第3回目	2、実習に向け課題を設定する。			
第4回目	3、実習オリエンテーションを組んでいただき、諸注意を再確認し、それぞれの施設の考えに基づいた実習準備をする。			
第5回目	《支援全般に参加し保育技術を習得する》			
第6回目	1、支援の実際を観察し、理解する。			

第7回目	・施設の沿革や支援方針を知る。 ・特別な支援を要する子どもの実態を知る。 ・施設的环境を知る。	
第8回目	・1日の流れを知る。 ・地域の環境について知る。 ・保護者の願いについて知る。	
第9回目	2、支援の実際を体験し、自分の「支援観」を見出す。	
第10回目	・施設の支援方針や支援計画を理解し、準備を手伝いながら支援法を学ぶ。 ・支援のねらいを理解し、準備を手伝う。	
第11回目	・子どもの活動を注意深くとらえ、保育士の支援の仕方を学ぶ。 ・子どもが降園した後の仕事を理解し、積極的に手伝う。	
第12回目	・保護者の願いが個別支援計画や日々の支援にどう生かされているかを学ぶ。	
第13回目	3、実習反省会を開いていただき、反省・評価を含めた指導を受け、新たな課題を見つける。	
第14回目	《自分の「支援観」と向き合う》	
第15回目	・向上心を持って子どもと向き合う姿勢を再確認し、新たな課題に取り組む。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	100%	実習施設におび手の評価基準により評価された5段階評価に基づく。2、1の評価は不可にする（5：すぐれている、4：ややすぐれている、3：普通、2：やや努力を要する、1：努力を要する）。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
佐野短期大学「保育実習の手引き」		
履修上の留意点・ルール		
保育実習指導Ⅲの授業を必ず履修し、単位取得の成績を待っていること。 保育士必修科目の必要単位が取得されていること（不可や欠時不認定の科目が多い場合は、面談の上実習延期や辞退を判断する）。 実習に臨む態度や意欲を明確に示し、実習施設に対して適切に行動できること（状況によっては実習延期や辞退も検討する）。		